

第1回 浅草地区まちづくりビジョン策定委員会（部会合同開催） 資料

参考資料1：検討の方向性について

【たたき台】

2022年9月28日
台東区都市づくり部

1-1. 新ビジョンの検討の論点等（案）

参考資料1：検討の方向性について

■論点（案）及び課題解決のヒント（案）の一覧

現段階でのたたき台であり、今後、策定委員会及び専門部会において、「**公民が連携**」した各々の「**役割**」や「**取組み**」を検討していく。

分野	検討の方向性	新ビジョン検討の素材となる 論点（案）及び課題解決のヒント（案）	ハード・ソフト
回遊・滞在	にぎわいをひろげる取組み	論点1：ウォーカブルな空間づくり	
		歩行者専用化・トランジットモール化	h
		歩道の拡幅整備	h
		滞留空間・広場等のオープンスペースの創出	h
		スクランブル交差点化	h
		論点2：浅草・日本の魅力を伝える観光プロモーションの推進	
	webコンテンツや広報誌の充実	s	
	フィルムコミッションによる周知活動の推進	s	
	多様な観光客を招致する取組みの推進	s	
	おもてなし環境の整備	論点3：観光行動を支えるサービス環境の向上	
		受入環境の整備	h/s
		観光バリアフリー情報の発信	s
誘導案内サインや観光マップの充実、更新		s	
デジタル技術を活用した観光行動の支援		s	
論点4：歴史や文化を感じる魅力的な景観の創出			
無電柱化の推進	h		
景観計画やガイドラインを活用した景観誘導	s		
エリアマネジメントによる道路空間の活用	s		
商店街環境整備の支援	h/s		
交通結節	だれもが使いやすい交通の仕組み	論点5：交通結節点の整備	
		利便性の高いバリアフリー動線の整備	h
		観光バス等の待機場所機能改善	h
		放置自転車対策の推進	s
		論点6：多様な交通手段による周辺地域との回遊性向上	
		シェアサイクルの推進、新モビリティの導入	s
総合的な交通情報、観光サービス提供等、統合化の推進	s		
交通事業者と連携した回遊行動を促すサービスの提供	s		

分野	検討の方向性	新ビジョン検討の素材となる 論点（案）及び課題解決のヒント（案）	ハード・ソフト
防災・避難	防災力の向上	論点7：普段から安心して過ごせるまちづくり	
		建物の更新に合わせた旧耐震施設更新	h
		建物の更新に合わせたオープンスペースの確保	h
		スーパー堤防整備	h
		無電柱化の推進	h
		建築物の耐震化の促進	s
		日常的な防災意識や備えの充実	s
		論点8：国際観光拠点にふさわしい防災機能の確保	
一時滞在施設の充実	s		
地域と連携した来街者避難体制の構築	s		
水辺空間	水辺を活かした魅力づくり	論点9：隅田公園と一体となった水辺空間づくり	
		公園機能の充実	h/s
		公民連携の空間活用推進	s
		景観計画やガイドラインを活用した景観誘導	s
		論点10：舟運を活かした活動の展開	
		船着場の一般利用の促進、利用案内の充実	s
東京都と連携した舟運活性化の取組み	s		
地域力	地域力の創造	論点11：柔軟で持続可能なまちづくり	
		建物の更新に合わせた多様な機能導入	h
		子育て世代などあらゆる世代を支える環境整備	s
		デジタル技術を活用したサービスの構築	s
		体験型コンテンツの充実	s
		論点12：公民連携のまちづくり	
事業者等と連携した企画実施	s		
事業者向けの各種相談、セミナー等啓発支援	s		
学校教育等と連携した子供へのシビックプライドの醸成	s		
エリアマネジメント団体及びまちづくりプレイヤーの育成	s		

1-1. 新ビジョンの検討の論点等（案）

参考資料1：検討の方向性について

回遊・滞在の将来イメージ： 都市空間を有効に活用して、浅草地区の多様な魅力を感じながら、ゆったりと地域をめぐりたくなるウォーカブルなまちなかの形成

● 具体的イメージ

- ゆとりある都市空間の創出により、多くの人々が「歩きたい」と思うウォーカブルな空間が形成されている。
- 浅草地区ひいては日本文化の魅力を多くの人に伝えるプロモーションが出来ており、浅草地区を訪れたいと思う人が増加している。
- 浅草地区ならではのまちなみの形成により、訪れる人に楽しさを提供する、にぎわいを感じられるまちなみが形成されている。
- デジタル技術を活用した情報発信やサービスの提供により、様々な人が快適にまちなかを回遊し、浅草地区を堪能することが出来ている。

【検討の方向性・・・にぎわいをひろげる取組み】

■ 論点1：ウォーカブルな空間づくり

（課題解決のヒント）

- ▶ 歩行者専用化・トランジットモール化
- ▶ 歩道の拡幅整備
- ▶ 滞留空間・広場等のオープンスペースの創出
- ▶ スクランブル交差点化



■ 論点2：浅草・日本の魅力を伝える観光プロモーションの推進

（課題解決のヒント）

- ▶ webコンテンツや広報誌の充実
- ▶ フィルムコミッションによる周知活動の推進
- ▶ 多様な観光客を招致する取組みの推進



1-1. 新ビジョンの検討の論点等（案）

参考資料1：検討の方向性について

回遊・滞在の将来イメージ：都市空間を有効に活用して、浅草地区の多様な魅力を感じながら、ゆったりと地域をめぐりたくなるウォーカブルなまちなかの形成

● 検討の方向性・・・にぎわいをひろげる取組み

■ 論点1：ウォーカブルな空間づくり

- 大阪市では、車中心から人中心のストリートへの転換を目指す「御堂筋将来ビジョン」を策定（平成30年）し、2037年を目標に御堂筋のフルモール化を目指した段階的な取組みを実施中



◀歩道拡幅後の社会実験の様子

ストリートマーケット



ファニチャー

現況



ファーストステップ 側道歩行者空間化

▶短・中期目標

- 短期目標：千日前通から道頓堀川区間は東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年
- 中期目標：道頓堀川以北は2025日本万国博覧会が開催される2025年



【側道歩行者空間化に向けた主な取組み】

- 社会実験などによる交通や荷捌きへの影響の検証
- 交通や荷捌き、自転車の通行や駐輪のあり方、空間の利活用手法などを地元関係者と議論する場を設ける
- 持続可能な公民連携体制づくりなど

※取組みの進捗状況により、目標年次を変更することがあります。

将来ビジョン

人中心～フルモール化

▶長期目標

- 御堂筋完成100周年（2037年）をターゲットイヤーとして設定



【人中心～フルモール化に向けた主な取組み】

- 側道歩行者空間化に向けた主な取組みの継続・発展
- 都心部全体の交通ネットワークの再編
- 人と多様なモビリティが安全に共存できる空間・仕組みづくりなど

■ 論点2：浅草・日本の魅力を伝える観光プロモーションの推進

- 観光公式サイトからInstagramの共通のタグで投稿を募集し、キャンペーン中に集まった写真で、ガイド写真集を作成・配布



東京都とInstagramによる共同キャンペーン「#MY TOKYO IS _____」。渡辺直美さん出演のイベント映像とTOKYO SCENERY GUIDEを公開中！

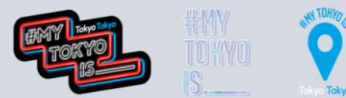
『TOKYO SCENERY GUIDE』冊子版

フォトフレーム付きで好評配布中！



ストーリーズで使える限定スタンプ

Instagramストーリーズで使える
東京都内限定スタンプも登場中！



※東京都内において表示されます

出典：御堂筋 将来ビジョン 概要版
御堂筋緩速車線歩行者優先化社会実験 実施結果・概要より作成

出典：東京の観光公式サイトTokyoTokyo

1-1. 新ビジョンの検討の論点等（案）

参考資料1：検討の方向性について

回遊・滞在の将来イメージ：都市空間を有効に活用して、浅草地区の多様な魅力を感じながら、ゆったりと地域をめぐりたくなるウォーカブルなまちなかの形成

● 具体的イメージ

- ゆとりある都市空間の創出により、多くの人が「歩きたい」と思うウォーカブルな空間が形成されている。
- 浅草地区ひいては日本文化の魅力を多くの人に伝えるプロモーションが出来ており、浅草地区に訪れたいと思う人が増加している。
- 浅草地区ならではのまちなみの形成により、訪れる人への楽しさを提供する、にぎわいを感じられるまちなみが形成されている。
- デジタル技術を活用した情報発信やサービスの提供により、様々な人が快適にまちなかを回遊し、浅草地区を堪能することが出来ている。

【検討の方向性・・・おもてなし環境の整備】

■ 論点3：観光行動を支えるサービス環境の向上

（課題解決のヒント）

- 受入環境の整備
- 観光バリアフリー情報の発信
- 誘導案内サインや観光マップの充実、更新
- デジタル技術を活用した観光行動の支援



■ 論点4：歴史や文化を感じる魅力的な景観の創出

（課題解決のヒント）

- 無電柱化の推進
- 景観計画やガイドラインを活用した景観誘導
- エリアマネジメントによる道路空間の活用
- 商店街環境整備の支援



1-1. 新ビジョンの検討の論点等（案）

参考資料1：検討の方向性について

回遊・滞在の将来イメージ：都市空間を有効に活用して、浅草地区の多様な魅力を感じながら、ゆったりと地域をめぐりたくなるウォーカブルなまちなかの形成

● 検討の方向性・・・おもてなし環境の整備

■ 論点3：観光行動を支えるサービス環境の向上

- 京都市では、株式会社ぐるなびとの地域活性化包括連携協定に基づいた連携により、朝と夜に楽しめるコンテンツ情報を発信することで、宿泊観光を推進するとともに、混雑の集中緩和と観光の時間帯の分散化を図っている。



出典：旅ぐるなび 京都朝観光ホームページ

■ 論点4：歴史や文化を感じる魅力的な景観の創出

- 夜間景観の演出手法として各地でプロジェクションマッピングの活用が進んでいる。これを踏まえ国土交通省より「プロジェクションマッピング実施マニュアル（平成30年3月）」が示されている。



プロジェクションマッピング世界大会の作品投影の対象として聖徳記念絵画館が使われた（2021年12月に実施）。出典：【TOKYO LIGHTS公式】

1-1. 新ビジョンの検討の論点等（案）

参考資料1：検討の方向性について

交通結節の将来イメージ： 全ての人の移動が快適で便利になり、周辺地域を行き来したくなる交通結節機能の円滑化と交通手段の多様化

● 具体的イメージ

- 交通結節点におけるバリアフリー化の推進や周辺建物と一体となった整備により、誰もが使いやすく利便性の高い交通結節点が形成されている。
- 交通結節点を中心に新たなモビリティや交通・観光サービスなど多様な交通手段が提供され、浅草地区に訪れる人が快適にまちなかを回遊出来ている。

【検討の方向性・・・だれもが使いやすい交通の仕組み】

■ 論点5：交通結節点の整備

（課題解決のヒント）

- 利便性の高いバリアフリー動線の整備
- 観光バス等の待機場所機能改善
- 放置自転車対策の推進



■ 論点6：多様な交通手段による周辺地域との回遊性向上

（課題解決のヒント）

- シェアサイクルの推進、新モビリティの導入
- 総合的な交通情報、観光サービス提供等、総合化の推進
- 交通事業者と連携した回遊行動を促すサービスの提供

1-1. 新ビジョンの検討の論点等（案）

参考資料1：検討の方向性について

交通結節の将来イメージ： 全ての人の移動が快適で便利になり、周辺地域を行き来しなくなる交通結節機能の円滑化と交通手段の多様化

● 検討の方向性・・・だれもが使いやすい交通の仕組み

■ 論点5：交通結節点の整備

- 追浜駅前では、国土交通省と横須賀市が連携し、駅周辺の分散するバス停を駅前に集約し、タクシーバスや障害者等用乗降場と合わせて整備することにより、交通結節機能の強化を図る「地域密着型バスタ」プロジェクトが検討されている。（令和3年4月事業化）

■ 論点6：多様な交通手段による周辺地域との回遊性向上

- 電動車いすや電動キックボードなどのモビリティは、シニア層の自動車に代わる移動手段や、環境にやさしく手軽な交通手段として社会課題解決や地域の活性化の観点から普及が期待されている

集約型公共交通ターミナルによりみち・えき・まちが一体となった新たな未来空間の創出

人中心の空間づくりの推進	モーダルコネク트의強化	官民連携の推進
<ul style="list-style-type: none"> 動線・施設配置の最適化 バリアフリー化 待合環境の改善 賑わい空間の創出 MaaS等への対応 ETC2.0 データ等の活用 	<ul style="list-style-type: none"> バス停の集約・ターミナル化 災害時の輸送確保 新たなモビリティへの対応 他の交通モード・拠点との連携 ICT等を活用した交通マネジメントの高度化(平常時・災害時) 	<ul style="list-style-type: none"> PPP/PFIの活用 道路空間の立体的な活用 まちづくりとの連携 イベントの実施 各種情報収集・活用(災害時の情報提供等)

地域の活性化

地域の実情に即した公共交通ネットワークの充実に伴って公共交通を使う取組により、人と物の流れや地域の活性化等により一層促進。

災害対応の強化

災害時の鉄道等の代替交通機関としてのバスの機能を強化し、災害時の人流を確保。

生産性の向上

ドライバー不足が進行するバスの運行効率化を促進するとともに、バスの利用促進により都市部の渋滞損失を削減。

多様なモビリティの普及に係る現状と方向性

- 高齢化が進む中、シニア層を中心とした交通の安全と生活に必要な移動手段の確保を両立することが求められており、多様なモビリティへの期待が高まっている。また、移動しやすい環境ができることで、積極的な外出機運が高まり、健康面・QOLの向上にも資するものと考えられる。
- 多様なモビリティは、都市や地方が抱える様々な移動課題への対応、新たなビジネスの創出などといった観点からもポテンシャルを有する。
- 今後、モビリティの種類ごとに、①安全性の向上、②社会的受容性の向上、③コストの削減の観点から、具体的な普及促進策を推進していく。

＜モビリティの今後の可能性＞			
<p>小型電動モビリティ</p>  <p>(今後の可能性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安全かつ近距離移動に適したモビリティとして、ラストワンマイル向けの移動手段としての普及が進む可能性あり。環境負荷が小さい点も魅力。 	<p>電動アシスト自転車</p>  <p>(今後の可能性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● こぎ出しがスムーズでふらつきが少ないという安全性、重い荷物も楽に運べるという機能性及び外出距離の延伸や回数増加という健康面の理解が深まれば、自動車の代替手段として普及する可能性あり。 	<p>電動車いす</p>  <p>(今後の可能性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 要介護者による利用が一般的と認識されているが、足腰の不自由な高齢者の潜在需要は大きい。空港、ショッピングセンター等でのシェアリングサービス等屋内外で普及が進む可能性あり。 	<p>電動キックボード</p>  <p>(今後の可能性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 手軽な交通手段としてシェアリングサービス等で普及する潜在力を有する。他の交通主体との調和等が図られ、歩行者の安全確保等の課題が解決されれば、ラストワンマイル問題を解決する可能性あり。

バスタプロジェクトのコンセプト（出典：交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン（国土交通省））

出典：多様なモビリティ普及推進会議 とりまとめ（令和元年12月）

1-1. 新ビジョンの検討の論点等（案）

参考資料1：検討の方向性について

防災・避難の将来イメージ：暮らす人も、訪れる人も安全・安心に過ごせる防災まちづくり

● 具体的イメージ

- 建築物の耐震化推進や堤防等のハード整備に加えて、防災情報の発信や備蓄品の充実等のソフト的な取組みにより災害時に備え、普段から安心して過ごせるまちが形成されている。
- 一時滞在施設の充実や災害時の体制構築により、地域住民だけでなく来街者の安全を確保する仕組みが構築され、国際観光拠点にふさわしい防災機能が確保されている。

【検討の方向性・・・防災力の向上】

■ 論点7：普段から安心して過ごせるまちづくり

（課題解決のヒント）

- 建物の更新に合わせた旧耐震施設更新
- 建物の更新に合わせたオープンスペースの確保
- スーパー堤防整備、無電柱化の推進
- 建築物の耐震化の促進
- 日常的な防災意識や備えの充実



■ 論点8：国際観光拠点にふさわしい防災機能の確保

（課題解決のヒント）

- 一時滞在施設の充実
- 地域と連携した来街者避難体制の構築



1-1. 新ビジョンの検討の論点等（案）

参考資料1：検討の方向性について

防災・避難の将来イメージ：暮らす人も、訪れる人も安全・安心に過ごせる防災まちづくり

● 検討の方向性・・・防災力の向上

■ 論点7：普段から安心して過ごせるまちづくり

- 国土交通省が進める「まるごとまちごとハザードマップ」では、生活空間である「まちなか」に水防災に関わる浸水深や避難行動に関わる情報を標示することで、日常時から防災への意識を高めている

多発する浸水被害への対応を図るため、まるごとまちごとハザードマップの全国的な取組を推進する。

1. 実施に係る検討・作業等の流れの具体・詳細化

- 事前調査段階から設置、維持管理・活用各段階の具体的な流れや留意点を具体・詳細化
- 各検討・作業における関係機関の役割分担が把握できるフロー図を記載

関係機関の役割分担	実施項目
実施実施	実施する関係機関がそれぞれ実施する実施項目
分担実施	実施項目が管理者等と連携・協力して実施する項目
共同実施	関係機関が共同で実施する項目

3. JISZ8210(案内用図記号)の改正に伴う図記号の変更

JISZ8210(案内用図記号)の改正に伴い洪水の図記号を変更

2. 水防法改正に伴い内水・高潮を追加

内水と高潮の図記号を新たに追加(内水は、洪水と同様)

4. 取組の蓄積を事例集にとりまとめ新たに追加

住民との連携、視認性や地域特性に配慮した標識の設置事例、活用事例等の先進事例を追加

出典：まるごとまちごとハザードマップ実施の手引き（第2版）の概要（平成29年6月）

■ 論点8：国際観光拠点にふさわしい防災機能の確保

- 京都市は、観光客に特化した帰宅困難者対策を推進するため「京都市帰宅困難者観光地対策協議会」を設置、「帰宅困難観光客避難誘導計画」を策定している



出典：帰宅困難観光客避難誘導計画（概要版）、平成25年12月）

1-1. 新ビジョンの検討の論点等（案）

参考資料1：検討の方向性について

水辺空間の将来イメージ： 暮らす人も、訪れる人も気軽に足を延ばしたくなる 居心地のいい水辺空間の形成

● 具体的イメージ

- 公民連携の取組みやスーパー堤防と連携した整備により、隅田公園と市街地の一体感が向上し、魅力的な水辺空間が形成されている。
- 舟運利用の仕組みや船着き場の充実により、多くの人々がこれまで以上に気軽に舟を利用でき、水辺のにぎわいや魅力がより一層向上している。

【検討の方向性・・・水辺を活かした魅力づくり】

■ 論点9：隅田川と一体となった水辺づくり

（課題解決のヒント）

- 公園機能の充実
- 公民連携の空間利活用推進
- 景観計画やガイドラインを活用した景観誘導



■ 論点10：舟運を活かした活動の展開

（課題解決のヒント）

- 船着場の一般利用の促進、利用案内の充実
- 東京都と連携した舟運活性化の取組み



1-1. 新ビジョンの検討の論点等（案）

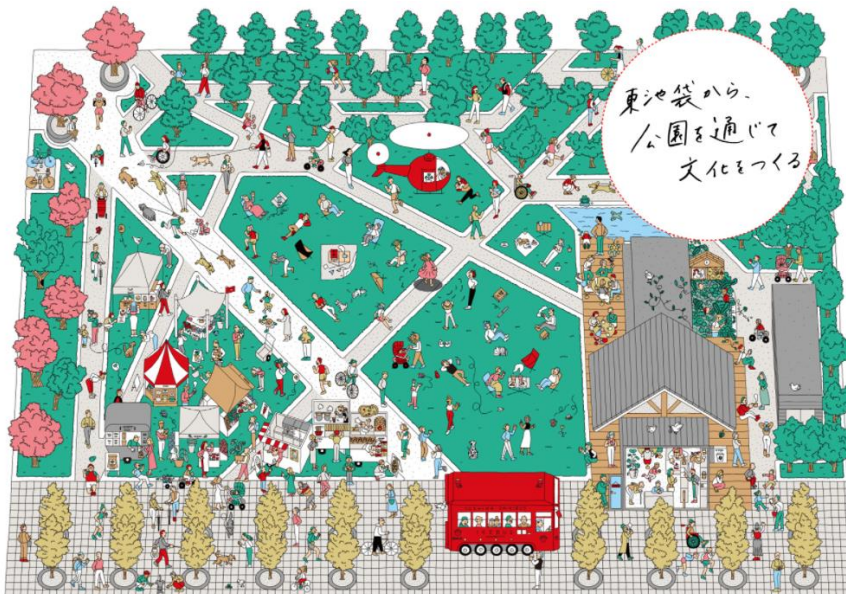
参考資料1：検討の方向性について

水辺空間の将来イメージ： 暮らす人も、訪れる人も気軽に足を延ばしたくなる 居心地のいい水辺空間の形成

● 検討の方向性・・・水辺を活かした魅力づくり

■ 論点9：隅田川と一体となった水辺づくり

- P-PFI制度を活用して2020年に開園した「としまみどりの防災公園」は、防災機能と日常の多様なにぎわいの場の創出の両立を目指し、指定管理者による運営が行われている



出典：イケ・サンパークウェブサイト

■ 論点10：舟運を活かした活動の展開

- 舟運活性化コンソーシアム TOKYO2021は、水辺に関わる主体が連携し、ユーザー目線でイノベーションを起こしていくことを目的に「TOKYO FUNECTION」活動として情報発信や連携協働のファシリテーション、事業創出の支援を実施



出典：TOKYO FUNECTION ウェブページ

1-1. 新ビジョンの検討の論点等（案）

参考資料1：検討の方向性について

地域力の将来イメージ： 地域の新しい取組みを引き出し、地域と共に考えるコロナ禍を踏まえたまちづくり

● 具体的イメージ

- デジタル技術の活用や多様な機能導入により、感染症や災害をはじめとしたリスクに対する高いレジリエンス（適応力）が醸成されているほか、新たな価値や魅力を創造するイノベーションが創出されている。
- 子どもへの地域教育や地域の人々に対する普及啓発によりまちづくりに対する関心度が高まっており、シビックプライドの醸成やまちづくりプレイヤーの育成、公民が連携したまちづくりの取組みが進んでいる。

【検討の方向性・・・地域力の創造】

■ 論点11：柔軟で持続可能なまちづくり

（課題解決のヒント）

- ▶ 建物の更新に合わせた多様な機能導入
- ▶ 子育て世代などあらゆる世代を支える環境整備
- ▶ デジタル技術を活用したサービスの構築
- ▶ 体験型コンテンツの充実



■ 論点12：公民連携のまちづくり

（課題解決のヒント）

- ▶ 事業者と連携した企画実施
- ▶ 事業者向けの各種相談、セミナー等啓発支援
- ▶ シビックプライドの醸成
- ▶ エリアマネジメント団体及びまちづくりプレイヤーの育成



1-1. 新ビジョンの検討の論点等（案）

参考資料1：検討の方向性について

地域力の将来イメージ： 地域の新しい取組みを引き出し、地域と共に考えるコロナ禍を踏まえたまちづくり

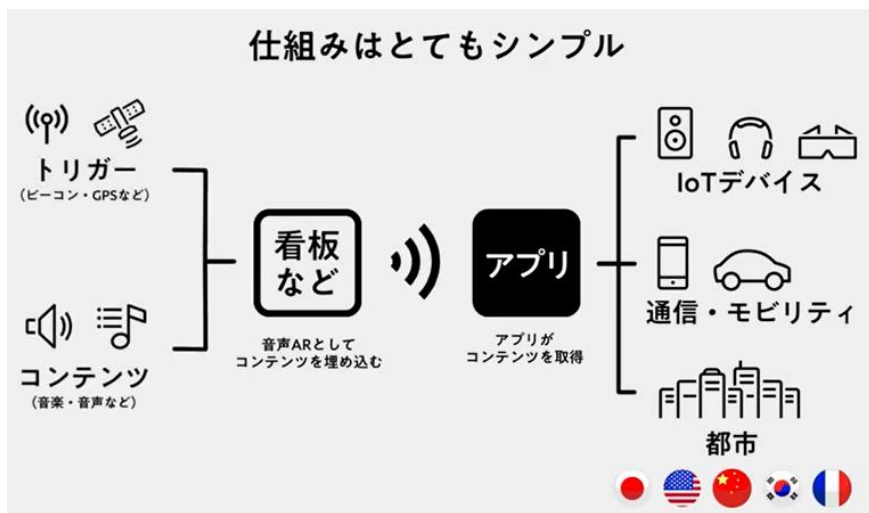
● 検討の方向性・・・地域力の創造

■ 論点11：柔軟で持続可能なまちづくり

- avexが提供する音声ARサービスのスマートフォンアプリ。美術館の音声ガイドのようなシステムをビーコンを用いてまちなかに実装するもの

■ 論点12：公民連携のまちづくり

- Code for JAPANは市民が主体となり、地域課題解決に取り組むコミュニティ作り支援や、テクノロジーを活用したアクションを創発する活動を支援していく非営利団体。全国各地で活動するCode for Xが展開され、パートナーシップを結んでいる



出典：SARFウェブページ



出典：Code for Japan ウェブページ